

第40回 「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウム
—自然災害と相模湾漁業の持続的発展について—

日時：2016年10月18日（火） 09：30—15：00

場所：神奈川県西地域県政総合センター（神奈川県小田原合同庁舎3F）

共催：（一般社法）水産海洋学会，（公財）相模湾水産振興事業団，小田原市、神奈川県水技セ相模湾試

コンビナー：平野敏行（東大名誉教授），松山優治（東京海洋大名誉教授），武井 正・

岩田静夫（（公財）相模湾水産振興事業団），鶴飼俊行（神奈川県水技セ）

開会の言葉：川崎秀一（（公財）相模湾水産振興事業団） 9：30～10：00

挨拶：和田時夫（（一般社法）水産海洋学会長）

加藤憲一（小田原市長）

武井 正（（公財）相模湾水産振興事業団理事長）

山本章太郎（神奈川県水技セ 相模湾試験場長）

座長：鎌谷明善（東京水産大名誉教授）・鶴飼俊行（神奈川県水技セ）

基調講演

開放型内湾における里海の実現を目指して - 三陸志津川湾を例として - 10：00～10：50

小松輝久（東大大気海洋研）

話題

1. 2010年9号台風後の酒匂川上流域の森林管理の現状と今後の方向 10：50～11：30

新井 昇（小山町防災対策指導員）

.....昼 食..... 11：30～12：30

座長：利波之徳（神奈川県水技セ 内水面水試）・山本章太郎（神奈川県水技セ相模湾試）

2. 酒匂川中流域の2010年9月の洪水時と現在の生物相の変化 12：30～13：20

勝呂尚之（神奈川県水技セ内水面水試）

3. 相模湾沿岸域の2010年9月の洪水直後から現在までの海域環境の変化 13：20～14：00

相沢 康（神奈川県水技セ相模湾試）

総合討論 14：00～15：00

座長：松山優治（東京海洋大名誉教授）

(1)現場からの意見 ①内水面漁業（酒匂川漁協）②刺網漁業（小田原市漁協）③遊漁漁業（小田原市漁協）

(2)討論

閉会のことば：杉山 武（（公財）相模湾水産振興事業団）

開催主旨：相模湾を取り巻く自然は、高度経済成長期の1960年代前半から環境破壊が進み、後半には産業・生活用水を確保するために相模川・酒匂川の二大河川からの全面取水が明らかになった。漁業者は河川取水が海域環境、海洋生物生産、漁業などに及ぼす影響を大いに懸念し、1970年にこの問題について漁業者、企業庁を含む県行政が協議を重ねた。1972年3月に相模湾漁業公害対策協議会から寄付金を受け、（財）相模湾水産振興事業団を設立し、県行政からは「保証を与え、漁業者を救済すれば解決する問題ではない」という漁業者の考えを理解し見舞金が拠出された。これらを基金として、相模湾の環境を保全し、水産振興を図るために15.7億円の費用を投じて自然保護と啓蒙普及、水産生物資源環境調査、栽培増養殖事業ほか7つの事業を実施してきた。

本シンポジウムは1977年に開始され、本年度で40回を迎える。これまで相模湾の漁業者が安心して生活ができ生物多様性が保証される相模湾を維持・保全を視座に、海洋環境・水産資源の問題、水産振興と環境保全に関連した諸問題、最新の話題や全国的な動向と関連した話題などをとりあげてきた。また、2000年頃から相模湾周辺域では若手漁業者の増加、地域社会における漁業の再評価など、漁業を取り巻く空気が変わってきている。

本シンポジウムでは、国際的に広がりはじめた「里海」の概念について学び、その上で相模湾の沿岸環境、海洋生物に大きな影響を与えた2010年の台風9号による大洪水現象をとりあげ、当時と今の酒匂川上流の森林域・流域・相模湾の水環境・生態系の推移について理解を深める。総合討論では相模湾の漁業者から意見を伺い、今後の上流域・流域・沿岸域に至る水循環・生態系の管理を漁業者だけでなく、農・林業者、地域・都市住民を含めた人々とともに今後の管理の方向について議論する。